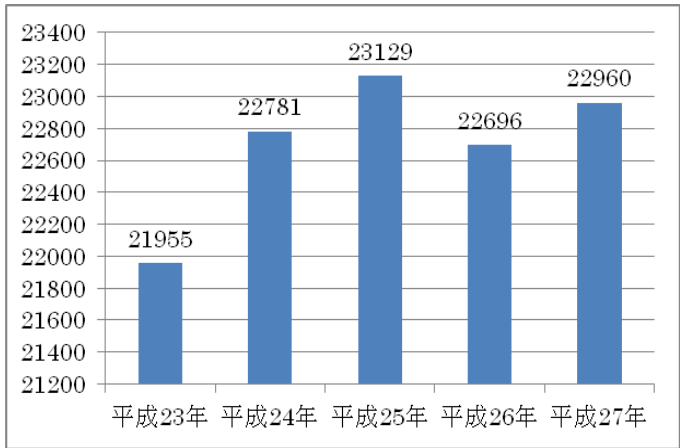




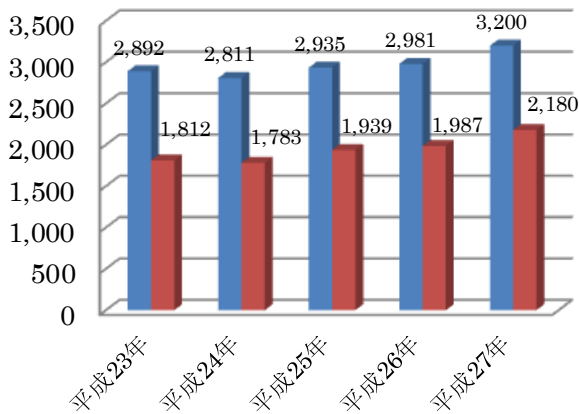
日常生活における事故（資料編）

1 過去5年間の救急出動件数の推移



平成23年から5年間の救急出動件数の推移です。
2万件を超える高止まりの状況が続いていることがわかります。

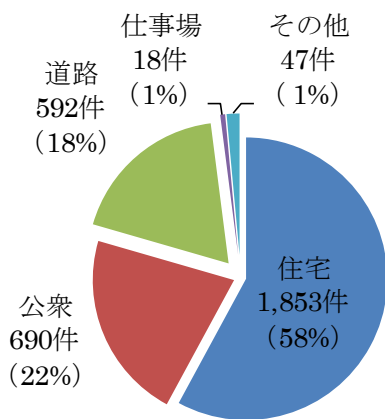
2 過去5年間の一般負傷の搬送人員



平成23年から平成27年までの5年間、一般負傷の搬送人員は年々増加しています。また一般負傷で搬送される人員の6割以上が65歳以上の高齢者のケガなどによるものでした。

■ 一般負傷による救急搬送人員
■ 一般負傷による搬送人員のうち65歳以上の搬送人員

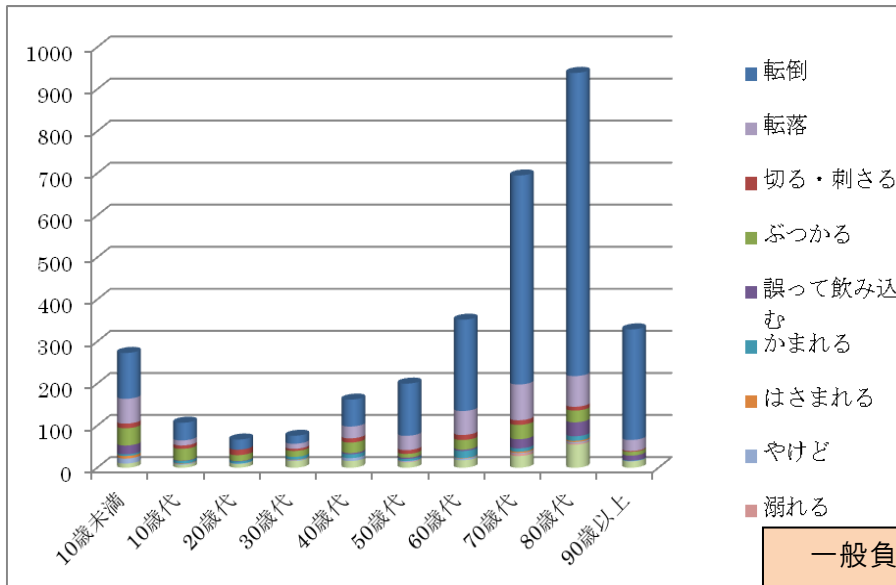
3 平成27年中 一般負傷の発生場所



一般負傷の発生場所は、3,200件中、1,853件（約6割）が住宅（家庭内）で発生しています。住宅での事故が多いことが分かります。

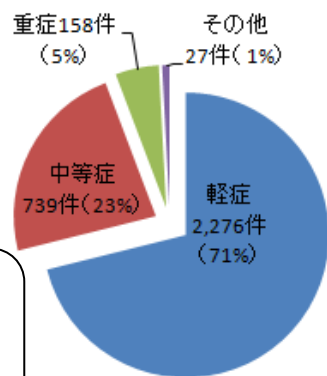


4 平成 27 年中 一般負傷の受傷原因



一般負傷の受傷原因の多くは、転倒や転落であり、その受傷する年齢は70歳代から80歳代で多く発生しています。また10歳未満の小さな子どもが、転倒や転落、やけど等の事故が多く発生していました。

5 平成 27 年中 一般負傷の受傷原因



軽 症：入院加療の必要がない
 中等症：およそ3週間以内の入院加療が必要
 重 症：3週間以上の入院加療が必要

一般負傷で受傷される、その程度の多くは、入院を必要としない軽症が多いですが、中等症、重症 897 件中、738 件は 65 歳以上の高齢者でした。高齢者のケガは重症化することがわかりました。

日常生活における事故は、家庭内で転倒や転落によるケガが多く発生していました。また、それらの事故は 65 歳以上の高齢者による発症が多く、受傷後は入院を必要とする重症化に繋がる可能性があることがわかりました。

家庭内での事故の原因である、「転倒」や「転落」をしないために、日常からの心がけ、事故に対する予防対策が必要です。

「予防救急」始めましょう！